

#チームガールあなたの選択



【解説編】

◇ SDGs って知っていますか？

・Sustainable Development Goals(サステイナブル・ディベロプメント・ゴールズ)の略

=意味は、**持** **続**可能な**開** **発**目標 です。

・世界が**2030**年までに達成するために国連が採択した**17**の目標

(理解のために)

わたしたちが毎日を安心して暮らしていくためには、世界の不平等、貧困、自然破壊などの課題を解決していく必要があります。SDGs は、持続可能な世界を実現するために特に重要な目標を取り決め、2030 年までの達成を目指して世界各国が取り組んでいます。

SDGs は 2015 年 9 月に国連で採択された国際目標で、国連に加盟する全ての国(193 か国)が合意しました。2016 年 1 月に発効しています。

📖 HP を読んでみよう

外務省提供

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

国連開発計画(UNDP)駐日事務所提供

<https://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/sustainable-development-goals.html>

◇ 世界の SDGs 達成度ランキング(2019 年)で日本は第**15**位です。

(理解のために)

国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(SDSN)によると世界の 162 か国のうち達成度ランキングの1位はデンマーク、2位はスウェーデン、3位はフィンランドと、北欧の国が上位を占めています。アジア諸国の中では日本が1位の達成度です。日本にとって最大の課題とされている目標は、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」、目標12「つくる責任 つかう責任」、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の4つです！この4つは、達成目標が遅れています。

📖 HP を読んでみよう

サステナブル・ブランド ジャパン提供

https://www.sustainablebrands.jp/news/jp/detail/1193050_1501.html

◆ 中学生以上のみなさんへの質問

☆ チャレンジ 1

1. もしあなたが、男の子が生まれた家に出産祝いのベビー服をプレゼントするとしたら何色を選びますか？

→男の子だからといって青や水色の色をあげなければならない**決まりはありません**。性差関係なく相手を思いながら贈り物を選ぶことが大切です。これまでの固定概念だけにとらわれず、まずは色々な選択肢や可能性について思いを巡らせることが大切で、それがジェンダー平等の意識の広がりにつながっていくことでしょう。

2. 日本で育児休暇をとる男性の割合はどれくらいでしょう？

→**正解は 6.16%です**。厚生労働省の調査によると、2018年度の育児休業を取得した女性は出産した女性のうち 82.2%。それに対して配偶者が出産した男性のうち育児休業を取得した男性の割合は 6.16%と低くなっています。(厚生労働省平成 30 年度雇用均等基本調査(速報版)【育児休業取得者の割合】参照)

📖 HP を読んでみよう

厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_05049.html

3. 日本で管理職の女性の割合はどれくらいでしょう？

→**正解は 12%です**。国際労働機関(ILO)の発表によると、2018年、管理職に占める女性の割合は、世界が 27.1%であるのに対し、日本が 12%でした。(2019年3月, 日本経済新聞) 先進 7 カ国(G7)中では最下位であり、G7 でのトップはフランスで 37%、これと比べると日本の女性管理職の割合が大変低いことがわかります。なお、政府は 2003 年に、2020 年までに指導的地位(国会議員や法人・団体の課長相当職以上等)にある女性の割合を、30%程度にする目標を掲げています。

📖 HP を読んでみよう

日本経済新聞

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO42179640X00C19A3EAF000/>

4. 日本の衆議院議員において女性の比率は何%くらいでしょう？

→正解は10.2%です(2019)。日本の女性国会議員比率(衆議院議員)は10.2%で、193カ国中164位であり、先進7カ国(G7)の中で最下位です。G7の中でのトップは世界17位のフランスが39.5%、次いで世界31位のイタリアが35.7%、以下順に39位イギリス(32%)、47位ドイツ(30.9%)、61位カナダ(26.9%)、76位アメリカ(23.6%)となっていて、日本の比率は6位と比べても低い数値です。(列国議会同盟 Women in national parliaments 2019 資料 参照)また日本は、2019年大阪で会議があった20カ国・地域首脳連合(G20)の構成国でも最下位です。

📖 HP を読んでみよう

Inter-Parliamentary Union (列国議会同盟)2019

<http://archive.ipu.org/wmn-e/classif.htm>

http://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2019/201906/201906_04.html

5. 外国では、2008年に女性国会議員の比率が男性国会議員の割合を上回り、2018年には女性の国会議員の比率が61.25%だった国がありました。それはどこの国でしょう？(外務省 HP 政治体制・内政 内政5 参照)

→正解は、アフリカ大陸にあるルワンダです。1995年時点ではトップ10は欧州が大半でしたが、2003年、ルワンダにクォータ制が導入され、今では女性議員の割合が最も高い国となりました。ルワンダでは1990年から1994年まで内線があり、1994年に発生したルワンダ大虐殺では多くの男性が犠牲になったという歴史があります。

📖 HP を読んでみよう

外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/rwanda/data.html>

6. 上記5.が実現できた鍵の一つはクォータ制度です。クォータ制度とはどのような制度でしょう？

→クォータ制とは、女性の社会参画を図るために、議員・閣僚などの一定数を女性に割り当てる制度です。クォータ制度の発祥地といわれるノルウェーでは、1974年に自由党が性別クォータ制を導入、性別クォータ制は、1988年の男女平等法の制定、2004年の会社法改正、2005年の地方自治体法改正により、公的機関、一般企業、議会に導入され、例えば、議会の男女比率はそれぞれ40%以上と定められています。国会でクォータ制度を取り入れている国は他にもあり、2020年に女性国会議員が50%以上の国は、ルワンダのほかに、キューバ、ボリビア、アラブ首長国連邦です。

📖 HP を読んでみよう

<https://kotobank.jp/word/クォータ制-482724>

7. スウェーデンでは、2015年にスウェーデン・アカデミーが編さんする辞書に性別に中立な代名詞が登録されました。何という単語でしょう？

→正解は「hen」です。男性にも女性にも使える代名詞なので、性別を断定できないときや断定したくないときに使用します。この単語は、男性代名詞「han」の多用が問題となって1960年代に登場した造語ですが、2000年頃からジェンダーに縛られたくない人たちが使い始め、2012年は、主人公の性別が明らかでなく、主人公の代名詞を「hen」とする絵本「キーヴィとかいぶつわんこ」が出版されるなど、社会的に「hen」が大きく注目されました。因みに、女性代名詞は「hon」です。

📖 HP を読んでみよう

<https://www.businessinsider.jp/post-196897>

◇ チャレンジ 3

生活のなかで見つけた「なぜ」に、自分で考え、ガールスカウトの仲間、家族、友だちの意見に耳を傾け、話し合う事は大切です。ジェンダーの現状から問題に気づき、解決策を見出していきます。この問題は他人事ではなく、わたしたちの身近にも存在していますので、自分事として見つめてみましょう。そして自分にできる事から行動に移していきましょう。

コラム

★ LGBT について知っていますか？

→ LGBT とは、Lesbian(レズビアン、女性同性愛者)、Gay(ゲイ、男性同性愛者)、Bisexual(バイセクシュアル、両性愛者)、Transgender(トランスジェンダー、性別越境者)の頭文字をとった単語で、セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)の総称のひとつです。他にも、LGBTQ という呼び方もあります。Q とは、クエスチョニング (Questioning) で、自分の性別がわからない人や意図的に決めていない人、決まっていない人、模索中である人のことを指します。また、決めるものではないと思う人も含みます。日本では、法律で同性婚が認められておらず、また社会制度は LGBT のカップルにとって住みよいものとなっていません。ぜひ海外での LGBT への対応なども調べてみてください。また、iPhone を持っている人は、ぜひ絵文字を見てみてください。同性カップルや同性カップル家族の絵文字が追加されています。誰もが自分の性的指向・性自認を尊重され、自分らしく生きることのできる社会を作っていくべきではないでしょうか。

法務省 <http://www.moj.go.jp/JINKEN/LGBT/index.html>